

# ボランチの役割がもたらす勝敗への影響

湯田 逸友 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：ボランチ パス回数 パス方向

## 1. 緒言

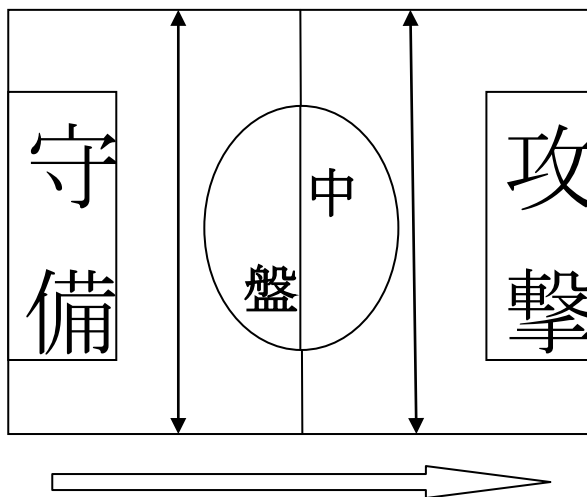
現代のサッカーにおいて、ボランチの働きがチームの勝敗に大きくかかわる。

そこで本研究は、スペイン代表シャビと日本代表遠藤保仁を擁している FIFA ランク 1 位スペインと 15 位の日本に着目し、ボランチがチームの勝利をもたらす影響を目的とする。

## 2. 研究方法

2010 年南アフリカ W 杯のグループリーグと決勝トーナメントの 4 試合 360 分を分析対象とし、VTR 分析を行う。

ピッチを 3 分割にし、守備ゾーン・中盤ゾーン・攻撃ゾーンとする。



- ・各ゾーンのパス回数
- ・各ゾーンのシュートに結びついたパス回数
- ・各ゾーンでのプレーの時間・特筆すべき傾向

以上のことを各試合で分析行っていく。

## 3. 結果と考察

両ボランチは、プレーするエリアは同じで

ある。あと、1 試合の走行距離、プレイエリア、パスの成功率は両選手とも大きな差はなかった。しかし、圧倒的にシャビのほうがボールにかかわる回数が多いこと判明した。現代サッカーは、ポゼッションサッカーが主流となっている中でボランチがキーププレーヤーになる。そのボランチは素早い判断と少ないボールタッチが求められる中で、いかに中盤ゾーンのところで個人でボールキープができ、支配率を高めることができるのかが大きく左右する。

シャビと遠藤両選手も中盤ゾーンでのパスが多かった。ボランチを基準にパスをつなぎ、そのパス交換でリズムをつくり、相手 DF が後手になってきたところにアクセントをいれるパスをボランチから入れれば得点、チャンスにつながるものが大きく結果として証明できるデータ分析になった。

## 4. 参考文献

- ・JFA 公式サイト <http://www.jfa.or.jp/>
- ・テクニカルニュース (財団法人 日本サッカー協会)